

2022年(令和4年) 11月5日 土曜日

東奥日報 15面 掲載

野辺西の初Vか



6年連続で決勝に進出し、悲願の初優勝を目指す野辺地西

市の方々が力を持続させられるか
が鍵得点という結果も出したい」と語った。
決勝は6日正午、青森市レクリエーションセンターで開催される。

山田高26連覇か

高校サッカー県大会

あす決勝

第101回全国高校サッカー選手権県大会は6日、6年連続同じ順位となった青森山田・野辺地西の決勝を行つ。過去5年は全

て青森山田が制したが、野辺地西もたびたび接戦に持ち込んでおり、「6度目の正直」で悲願の初優勝を狙つ。(成田亮)

青森山田は昨季の全国

高校総体(インターハイ)、高円宮杯プレミアリーグ東地区、全国高校

サッカー選手権の主要

タイトル3冠を獲得したチームから選手の大部分が入れ替わった。今季はインターネットハイ初戦敗退、プレミアリーグ東地区では5連敗を喫するなど苦しい戦いが続いている。

3日の準決勝はほぼ3ストメンバードで臨み、向陵に17-0の大勝。負傷離脱していた主将のDF多久島が3カ月ぶりに復帰したのも好材料で、全

国トップレベルのハイレベルで26連覇を狙う。これまでの3戦で13得点を挙げた山田高は、昨年の決勝に出場した選手の多くが残り、捲土(けんと)重来を期す。

守備の要で主将のDF布施が準々決勝で負傷し、決勝に間に合うか微妙な状況だが、戦った準決勝では危ない試合運びで東奥連盟の決勝に進出した。決勝までの3戦で得点を生みだして接戦に持ち込みた

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したもの